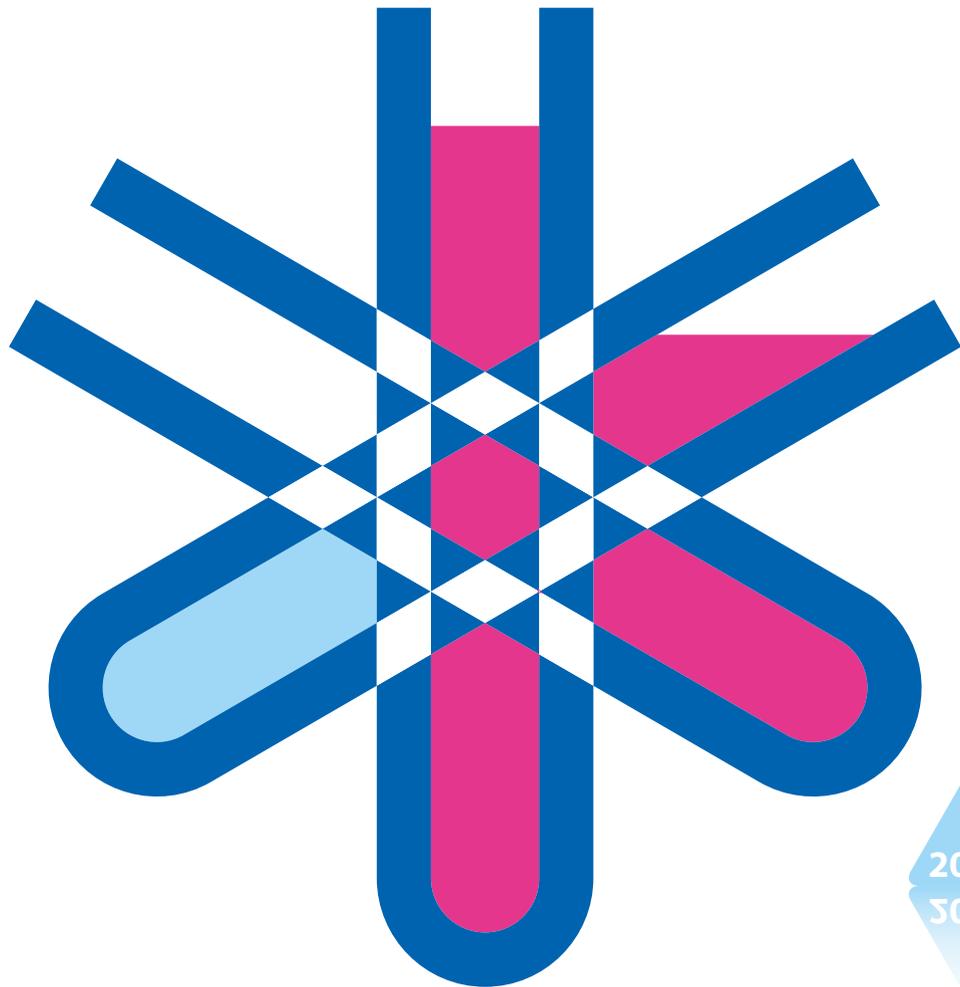


# 横查情報月報



2024  
5054

12  
15

横浜市衛生研究所

# 令和6年12月号 目次

## 【検査結果】

横浜市内のマダニ類調査結果（令和5年度） .....	1
食品中の動物用医薬品検査結果（令和6年4月～9月） .....	4

## 【情報提供】

衛生研究所ウェブページ情報（令和6年11月） .....	6
------------------------------	---

## 【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和6年11月） .....	7
-----------------------------	---

\* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo-fukushi/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

# 横浜市内のマダニ類調査結果（令和5年度）

## 1 はじめに

マダニ類は日本に約50種が生息しており、すべての種が吸血し、主に哺乳類や鳥類、爬虫類などに寄生します。ダニ媒介感染症は、病原体を保有するダニが吸血の際に病原体を媒介することによって起こる感染症のことです。マダニ類による吸血は、幼虫、若虫、成虫の各ステージで1回ずつ、生涯で3回行われ（図1）、いずれも病原体を媒介するリスクがあります。

ヒトの主なダニ媒介感染症は、急性重症熱性血小板減少症候群（severe fever with thrombocytopenia syndrome; SFTS<sup>\*1</sup>）、ウイルス脳炎、日本紅斑熱、ライム病などが挙げられ、特に近年ではSFTSが問題となっています。

SFTSは、日本国内で2013年（平成25年）1月に死亡例が初めて報告されて以来、2024年（令和6年）4月30日現在まで、累計患者数963名（うち死亡例106例）が報告されています<sup>\*2</sup>。また2024年3月に、SFTSウイルスに感染した重症患者の体液などに直接接触する機会があった医療従事者への感染が、国内初のヒト-ヒト感染症例として報告されました。

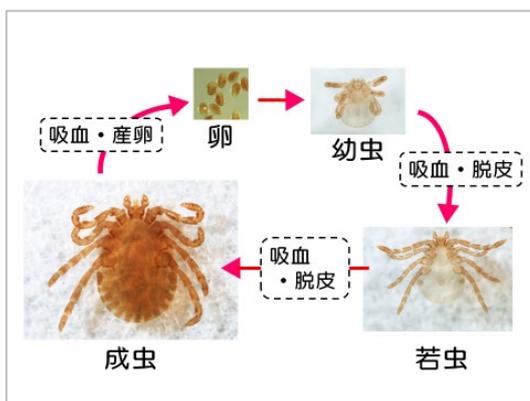


図1 マダニ類の生活史

SFTSの推定感染地は西日本が中心でしたが、徐々に患者発生が確認される地域が東へ広がっています。また、患者発生報告のない地域に生息するマダニ類からもSFTSウイルス遺伝子が検出されたという報告もみられています。さらにSFTSを発症したイヌやネコなどの愛玩動物等からの接触感染も報告されています。

横浜市でもマダニ類の捕獲、種の鑑別を行い、市内に生息するマダニ相を把握するとともに、ウイルス検査が行える体制を整えておくことが必要です。そのため、市内の緑地や公園において、マダニ類の生息状況調査を行い、捕獲したマダニ類のSFTSウイルス遺伝子検査を行っています。

本稿では、令和5年度に実施した調査結果について報告します。

## 2 調査方法

### (1) マダニ類の採集

マダニ類の採集は、旗ずり法（フラッキング法）により行いました。旗ずり法とは、白色フランネル布（30×45 cm）を長さ約1メートルの棒の一端に付け、地表の植生や落ち葉の上をこすり、マダニ類を採集する方法です（写真1）。調査者一人当たり約30分間調査を行いました。



写真1 旗ずり法（フラッキング法）

令和5年度は、栄区瀬上市民の森（以下円海山とする）及び金沢区富岡総合公園の2地点で調査を行いました。調査は、いずれの公園とも2023年3月、4月及び10～12月の各月1回計5回行いました。

採集したマダニ類は、成虫については実体顕微鏡で、若虫及び幼虫については光学顕微鏡で同定しました。

## (2) SFTSウイルス遺伝子検査

採集したマダニ類の成虫及び若虫の一部について、同定、計数後にSFTSウイルス遺伝子検査\*<sup>3</sup>を行いました。

## 3 結果

### (1) マダニ類の採集

調査地点別のマダニ類の捕獲数を表1に示しました。

表1 調査地点別のマダニ類捕獲数

種類	円海山		富岡総合公園		合計	
キチマダニ	485	(94.9%)	12	(57.1%)	497	(93.4%)
フタトゲチマダニ	4	(0.8%)	0	(0%)	4	(0.8%)
アカコッコマダニ	8	(1.6%)	8	(38.1%)	16	(3.0%)
ヤマトマダニ	14	(2.7%)	0	(0%)	14	(2.6%)
チマダニ属の一種	0	(0%)	1	(4.8%)	1	(0.2%)
合計	511		21		532	

令和5年度の調査では、採集されたマダニ類は5種532個体でした。調査地点別では、円海山が511個体、富岡総合公園が21個体でした。

円海山では、5回の調査でキチマダニ*Haemaphysalis flava*、フタトゲチマダニ*H. longicornis*、アカコッコマダニ*Ixodes turdus*、ヤマトマダニ*I. ovatus*の4種が採集されました。キチマダニが最も多く採集され、94.9%を占めました。

富岡総合公園では、5回の調査でキチマダニ、アカコッコマダニ、チマダニ属の一種が採集されました。

円海山におけるキチマダニのステージ別捕獲状況について、5回の調査結果を、調査者一人当たりに換算し、図2に示しました。

成虫、若虫はいずれの回も捕獲されました。成虫は春期に捕獲数が多く、秋期には少ない傾向がみられました。若虫も同様の傾向でしたが、特に3月の捕獲数が多く、10月は少なくなりました。幼虫は10月に1個体のみが捕獲されました。

富岡総合公園における捕獲状況について、月別の捕獲数を表2に示しました。キチマダニは、10月を除く各回、アカコッコマダニは春期のみ捕獲されましたが、いずれも個体数はわずかでした。キチマダニは成虫が3、4月に、若虫が3、11、12月に捕獲されました。アカコッコマダニは3月に成虫と若虫が各1個体、幼虫が5個体、4月に若虫が1個体捕獲されました。

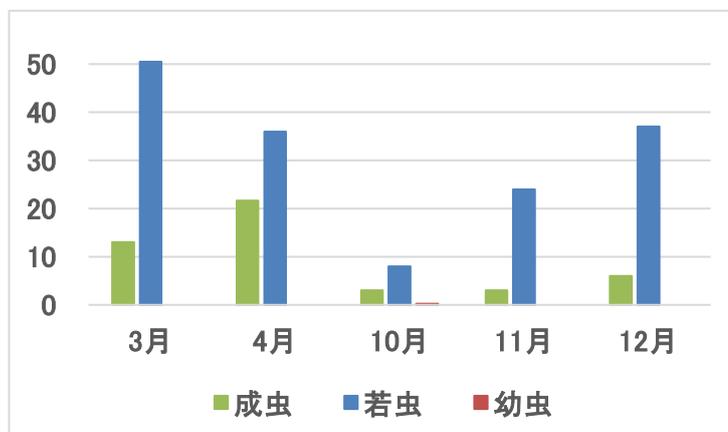


図2 円海山における調査者一人当たりのキチマダニのステージ別捕獲状況

表2 富岡総合公園のマダニ類の月別捕獲数

種類	3月	4月	10月	11月	12月
キチマダニ	6	1	0	2	3
アカコッコマダニ	7	1	0	0	0
チマダニ属の一種	0	0	1	0	0
合計	13	2	1	2	3

## (2) SFTSウイルス遺伝子検査

捕獲されたマダニ類の成虫及び若虫の一部について、SFTSウイルス遺伝子検査<sup>\*3</sup>を行いました。

円海山については、キチマダニ、フタトゲチマダニ、アカコッコマダニ、ヤマトマダニ、合計34個体の検査を行いました。富岡総合公園については、キチマダニ、アカコッコマダニ、合計9個体の検査を行いました。

表3 SFTSウイルス検査を行ったマダニ類

調査地点	キチマダニ		フタトゲチマダニ		アカコッコマダニ		ヤマトマダニ		合計
	成虫	若虫	成虫	若虫	成虫	若虫	成虫	若虫	
円海山	22	0	0	4	1	3	4	0	34
富岡総合公園	2	5	0	0	0	2	0	0	9
合計	24	5	0	4	1	5	4	0	43

いずれの検体からもSFTSウイルス遺伝子は検出されませんでした。

今後も市内におけるマダニ類の調査を実施し、生息状況やウイルス保有の有無について監視を継続していきます。



写真2 キチマダニ成虫

\*1: SFTSは、2018年の国際ウイルス分類委員会 (ICVT) の新規分類で、フェニウイウイルス科 (Family Phenuiviridae) バンヤンウイルス属 (Genus Banyangvirus) に分類されるフアイヤンシヤン・バンヤンウイルス (Huaiyangshan banyangvirus) に科名、属名、ウイルス名が変更された。ただし、本稿では、広く一般に用いられている病名およびウイルス名である、SFTS及びSFTSウイルスを用いた。

\*2: 遡り調査の結果判明した2005年(平成17年)からの患者4人は、感染症発生動向調査で届出が求められる以前に診断されたため含まれていない。

\*3: 国立感染症研究所獣医科学部SOP「マダニからのSFTSウイルス検出マニュアル(ver3.1)」による。

【 微生物検査研究課 医動物担当 】

# 食品中の動物用医薬品検査結果（令和6年4月～9月）

動物用医薬品は動物の疾病の治療、予防及び発育促進の目的で使用されています。畜水産食品中に残留する動物用医薬品が人の健康に害を及ぼすことのないよう、消費者庁\*は動物用医薬品について残留基準を設定しています。

当所では、市内流通及びインターネット購入品の畜水産食品について検査を行っています。今回は、医療局食品専門監視班が令和6年4月、7月及び9月に収去及びインターネットで購入した食品の検査結果を報告します。

4月には、牛の筋肉3検体、豚の筋肉3検体、牛の脂肪3検体及び豚の脂肪3検体の計12検体について、検査を行いました。7月には、すずき目魚介類3検体（マダイ1検体及びブリ2検体）、さけ目魚介類2検体（ギンザケ及びトラウトサーモン各1検体）、エビ2検体、うなぎ蒲焼2検体及びその他の魚類1検体（パンガシウス）の計10検体について検査を行いました。また、9月には、牛の筋肉2検体、豚の筋肉7検体及び鶏の筋肉2検体の計11検体について、検査を行いました。

その結果、表1及び表2に示すとおり全ての項目で不検出でした。

\*令和6年4月1日に、食品衛生基準行政は厚生労働省から消費者庁に移管されました。

表1 畜産物の筋肉及び魚介類等の検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果								検出限界
	畜産物の筋肉			魚介類及び魚介類加工品					
	牛筋肉 (5検体)	豚筋肉 (10検体)	鶏筋肉 (2検体)	すずき目 (3検体)	さけ目 (2検体)	エビ (2検体)	うなぎ蒲焼 (2検体)	その他魚類 (1検体)	
<b>【合成抗菌剤】</b>									
ニトロフラントイン	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
フラゾリドン	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
フラルタドン	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
マラカイトグリーン	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.002
ロイコマラカイトグリーン	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.002
エンロフロキサシン(シプロ フロキサシンとの和)	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オキシリニック酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルビフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
クロビドール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
サラフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ジフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファクロルピリダジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジアジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジミジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジメキシシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファセタミド	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファチアゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファドキシシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファピリジシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファベンズアミド	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメキサゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメキシピリダジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01

表1(続き) 畜産物の筋肉及び魚介類等の検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果								検出限界
	畜産物の筋肉			魚介類及び魚介類加工品					
	牛筋肉 (5検体)	豚筋肉 (10検体)	鶏筋肉 (2検体)	すずき目 (3検体)	さけ目 (3検体)	エビ (2検体)	うなぎ蒲焼 (2検体)	その他魚類 (1検体)	
スルファメラジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファモイルダプソン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファモノトキシシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルフイソゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルフイソミジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ダノフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
チアンフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
トリメプリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ナイカルバジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ナリジクス酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ノルフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ピリメタミン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ピロミド酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
フルメキン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
マルボフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ミロサマイシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
<b>【抗生物質】</b>									
OTC、CTC及びTCの和*	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	-	-	-	0.02
オキシテトラサイクリン	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
クロルテトラサイクリン	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.03
テトラサイクリン	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
クロラムフェニコール	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.005
<b>【寄生虫用剤】</b>									
フルベンダゾール	-	-	N.D.	-	-	-	-	-	0.002
レバミゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01

単位:ppm N.D.:不検出 -:実施せず

\*:オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン及びテトラサイクリンの和

表2 畜産物の脂肪の検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果		検出限界
	牛脂肪 (3検体)	豚脂肪 (3検体)	
<b>【寄生虫用剤】</b>			
イベルメクチン	N.D.	N.D.	0.005
エプリノメクチン	N.D.	N.D.	0.005
ドラメクチン	N.D.	N.D.	0.005
モキシデクチン	N.D.	N.D.	0.005

単位:ppm N.D.:不検出

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

# 衛生研究所ウェブページ情報（令和6年11月）

横浜市衛生研究所ウェブページは、平成10年3月に所独自のウェブサイトとして開設されました。現在は、本市ウェブサイトと統合され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。今回は、当ウェブページにおける令和6年11月の追加・更新記事について報告します。

## 1 追加・更新記事

令和6年11月に追加・更新した主な記事は、10件でした。

掲載月日	内容
11月7日	横浜市インフルエンザ流行情報2号 手足口病流行情報(2024年11月7日)
11月12日	2024年度横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果
11月14日	横浜市インフルエンザ流行情報3号 手足口病流行情報(2024年11月14日)
11月15日	横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果
11月21日	横浜市インフルエンザ流行情報4号 手足口病流行情報(2024年11月21日) 感染症に気をつけよう(11月号)
11月28日	横浜市インフルエンザ流行情報5号

## 2 記事紹介

インフルエンザ流行情報(2024/2025)

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryō-fukushi/kenko-iryō/eiken/kansen-center/rinji/influenza-rinji-2024.html>

手足口病流行情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryō-fukushi/kenko-iryō/eiken/kansen-center/rinji/hfmd.html>

横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryō-fukushi/kenko-iryō/eiken/kansen-center/byogentai/inf-c-kabaikai.files/kakekka2024.pdf>

横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryō-fukushi/kenko-iryō/eiken/kansen-center/byogentai/covid-19genome.html>

感染症に気をつけよう

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryō-fukushi/kenko-iryō/eiken/kansen-center/shimin/kiwotukekyou.html>

【 感染症・疫学情報課 】

# 横浜市感染症発生動向調査報告（令和6年11月）

## 《今月のトピックス》

- インフルエンザが流行期に入りました。ワクチン接種など、早めの対策が大切です。
- マイコプラズマ肺炎、伝染性紅斑の報告数が増加しています。百日咳、手足口病の報告も続いています。咳エチケットや手洗いなど、基本的な感染対策を心がけましょう。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が引き続き多い傾向が続いています。肉などの食品は十分に加熱し、調理や食事の前、トイレの後などにはしっかり手を洗いましょう。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心とした幅広い年齢層で患者が多く発生しており、より一層の注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年10月21日～11月24日に報告された全数把握疾患>

細菌性赤痢	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4件
腸管出血性大腸菌感染症	16件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	6件
E型肝炎	2件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
A型肝炎	1件	侵襲性髄膜炎菌感染症	1件
つつが虫病	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	7件
レジオネラ症	8件	梅毒	39件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	6件	百日咳	11件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件		

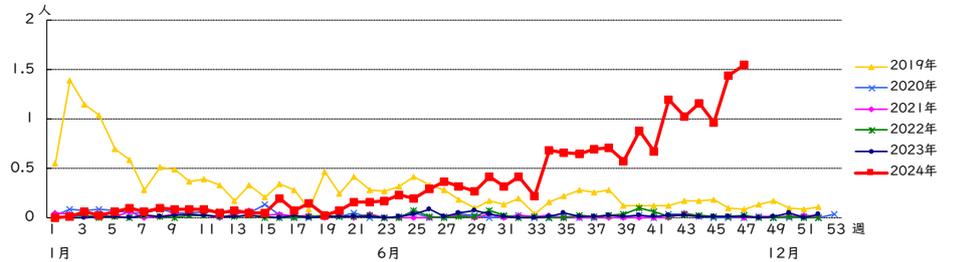
1. **細菌性赤痢**:50歳代で、Sonnei(D群)です。国外での経口感染と推定されています。
2. **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳代～70歳代で、O血清群はO157が9件、O103が2件、O165が1件、O血清不明が4件です。経口感染と推定される報告が5件、経口感染または接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が10件です。
3. **E型肝炎**:40歳代及び50歳代で、経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
4. **A型肝炎**:30歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
5. **つつが虫病**:30歳代及び60歳代で、動物・蚊・昆虫等からの感染と推定される報告が1件、昆虫等からの感染と推定される報告が1件です。
6. **レジオネラ症**:50歳代～90歳代で、患者(確定例)が7件(いずれも肺炎型)、無症状病原体保有者が1件です。水系感染と推定される報告が4件、感染経路等不明の報告が4件です。
7. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:10歳代～80歳代で、以前からの保菌と推定される報告が2件、医療器具関連感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件です。
8. **クロイツフェルト・ヤコブ病**:60歳代で、古典的CJDです。
9. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:10歳未満～60歳代で、血清型はA群が1件、B群が3件です。創傷感染と推定される報告が1件、接触感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定されている報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
10. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:20歳代～70歳代で、感染経路は性的接触と推定される報告が5件(同性間3件、異性間1件、詳細不明1件)、感染経路等不明の報告が1件です。
11. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:10歳未満及び90歳代(ワクチン接種歴3回1件、不明1件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
12. **侵襲性髄膜炎菌感染症**:30歳代(ワクチン接種歴1回)で、感染経路等不明です。
13. **侵襲性肺炎球菌感染症**:40歳代～80歳代(ワクチン接種歴無1件、不明6件)で、飛沫感染と推定される報告が1件、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が4件です。
14. **梅毒**:10歳代～80歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期16件、早期顕症梅毒Ⅱ期12件、無症状病原体保有者11件です。性的接触による感染と推定される報告が33件(異性間23件、同性間4件、詳細不明6件)、感染経路等不明が6件です。
15. **百日咳**:10歳未満～70歳代(ワクチン接種歴4回3件、1回2件、不明6件)で、家族内感染と推定される報告が2件、周囲の流行と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が8件です。

報告週対応表	
2024年第43週	10月21日～10月27日
第44週	10月28日～11月 3日
第45週	11月 4日～11月10日
第46週	11月11日～11月17日
第47週	11月18日～11月24日

◇ 定点把握の対象

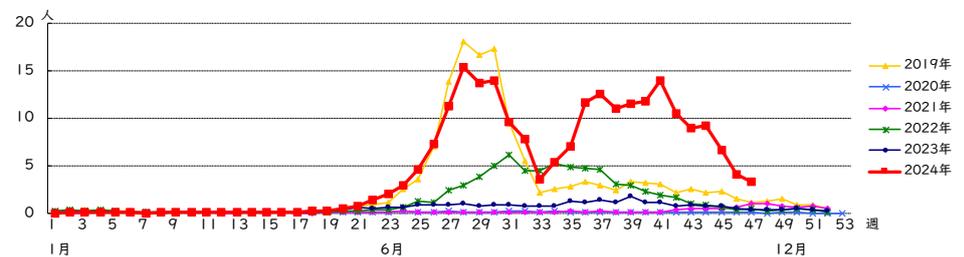
1 伝染性紅斑

2024年第20週以降増加傾向となり、特に第34週以降は例年よりもかなり高い値で推移しています。第47週は1.55です。



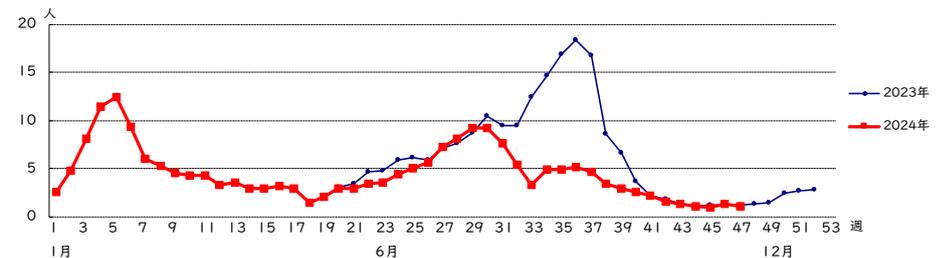
2 手足口病

2024年第26週に7.22となり、警報発令基準値(5.00)を上回りました。第28週に15.27で1度目のピークを、第41週に13.85で2度目のピークを迎え、以降は減少傾向が続いています。第47週は3.25です。



3 新型コロナウイルス感染症

2024年第19週以降増加傾向が続いていましたが、第29週の9.15をピークに減少傾向が続いています。第47週は1.04です。



4 性感染症(2024年10月)

性器クラミジア感染症	男性:30件	女性:26件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 9件	女性: 8件
尖圭コンジローマ	男性:20件	女性: 3件	淋菌感染症	男性: 9件	女性: 3件

5 基幹定点週報

	第43週	第44週	第45週	第46週	第47週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25
無菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.25	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	1.75	2.75	5.00	2.50	2.25
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(2024年10月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ(内科)定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹(病院)定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

(ウイルス検査)

2024年第43週～第47週に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点41件、インフルエンザ(内科)定点9件、基幹(病院)定点2件でした。

12月3日現在、表に示した各種ウイルスの分離11株と遺伝子12件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2024年第43週～第47週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	イン フル エン ザ	手 足 口 病	上 気 道 炎	下 気 道 炎	髄 膜 炎	発 熱
インフルエンザウイルス AH1型pdm09	3 -		1 -			
インフルエンザウイルス AH3型	1 -					
インフルエンザウイルス B型(Victoria系統)	1 -					
パラインフルエンザウイルス 2型				1 -		
パラインフルエンザウイルス 3型						- 1
ヒトボカウイルス			- 1	- 1		
コクサッキーウイルス A4型				- 2		
コクサッキーウイルス A16型		3 2	- 1		- 1	
エンテロウイルス A71型		1 -				
ライノウイルス			- 1			
アデノウイルス		- 1	- 1			
合 計	5 -	4 3	1 4	1 3	- 1	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2024年第43週～第47週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症11件、細菌性赤痢1件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症6件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4件、侵襲性インフルエンザ菌感染症2件、侵襲性髄膜炎菌感染症1件、トキシックショック症候群1件でした。医療機関からの検査依頼は、サルモネラ症3件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ症4件、レプトスピラ症疑い3件、不明熱3件、髄膜炎菌接触者調査1件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は溶血性レンサ球菌感染症4件、マイコプラズマ感染症2件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査（2024年第43週～第47週）

菌株同定	項目	検体数	血清型等			
保健所	腸管出血性大腸菌感染症	11	O157 : H7 VT1 VT2 (5) O157 : H7 VT2 (3) Og76 : H19 VT1 (1) Og141 : Hg29 VT2 (1) Og182 : Hg25 VT2 (1)			
	細菌性赤痢	1	<i>Shigella sonnei</i> (1)			
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	6	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (2) <i>Klebsiella aerogenes</i> (1) <i>Klebsiella pneumoniae</i> (3)			
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4	A群溶血性レンサ球菌 T4型 (1) B群溶血性レンサ球菌 Ia型 (1) B群溶血性レンサ球菌 III型 (1) B群溶血性レンサ球菌 V型 (1)			
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	<i>Haemophilus influenzae</i> 型別不能 (2)			
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1	<i>Neisseria meningitidis</i> B群 ST2057 (1)			
	トキシックショック症候群(TSS)	1	<i>Staphylococcus aureus</i> TSST-1、PVL陽性 (1)			
	医療機関	サルモネラ症	3	<i>Salmonella</i> Kentucky (1) <i>Salmonella</i> Sandiego (1) <i>Salmonella</i> Typhimurium (1)		
		分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型
		保健所	喀痰	レジオネラ症	4	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (2) レジオネラ属菌 培養 陰性 (2)
尿			1	レプトスピラ PCR 陰性 (1)		
全血	レプトスピラ症疑い		1	レプトスピラ PCR 陰性 (1)		
血清			1	レプトスピラ PCR 陰性 (1)		
尿			1	レプトスピラ PCR 陰性 (1)		
全血	不明熱		1	レプトスピラ、ボレリア PCR 陰性 (1)		
血清			1	抗ボレリア抗体、抗ブルセラ抗体 陰性 (1)		
咽頭ぬぐい液	髄膜炎菌接触者調査		1	髄膜炎菌 培養 陰性 (1)		
小児サーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等		
小児科定点	咽頭ぬぐい液	溶連菌感染症	4	A群溶血性レンサ球菌 T4型 (2) 溶血性レンサ球菌 培養 陰性 (2)		
	咽頭ぬぐい液	マイコプラズマ感染症	2	マイコプラズマ PCR 陽性 (2)		

【 微生物検査研究課 細菌担当 】